【分野】野　菜

夏秋トマトの裂果・草勢低下対策

【要約】
夏秋トマトでは、裂果に強い新品種の導入により、裂果の発生率を大きく低下させることができます。また、台木に「グリーンフォース」を用いることで収量が増加します。

【背景】
夏秋トマトでは、夏期の高温や強日射の影響で裂果（図１）の増加や草勢低下による減収が問題となっており、対策が求められています。そこで、夏秋期の裂果及び草勢低下を軽減する方法について検討しました。

図１　トマトの裂果

【結果】

１　裂果に強く、収量が安定する穂木品種の選定

新品種「桃太郎みなみ」及び「麗月」は、「桃太郎ワンダー」と比較して程度の強い裂果が少ないことを明らかにしました（表１）。

表1　各品種の裂果発生程度の比較

処理区	裂果発生割合(%)			
	0[z]	1	2	3
桃太郎みなみ	81	17	1	1
麗月	96	3	0	0
桃太郎ワンダー	48	33	10	9

[z] 裂果発生程度（０～３の４段階評価、０；発生なし、１；果肉に達していない、２；果汁が出ない、病気・腐敗がないもの、３；規格外品）

２　増収が見込める穂木・台木品種の組合せ

新品種「桃太郎みなみ」は、台木に「グリーンフォース」を用いることで、可販収量が増加することを明らかにしました（図２）。

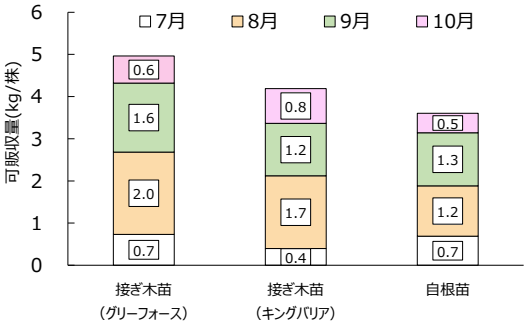

図２「桃太郎みなみ」の接ぎ木苗及び自根苗の月別の可販収量

担当：農業研究所　高冷地研究室(0867-66-2043)

（研究課題名：夏秋雨除けトマト栽培における秋期増収技術の開発（H29～R３）
夏秋雨除けトマト栽培における安定生産技術の開発（R４～７））